

政策提言が相次ぎ実現 新年度で予算化や制度変更

皆様のご支援で県議会に送って頂いて2年。この間、続けてきた政策提言が新年度から予算化されたり、制度改正されたりして、相次いで実現しました。県民の声を県政に届けるのが県議の仕事。これからも皆様の御意見、御要望、御提案の実現へ頑張つて参ります。

後継者を志す子や孫応援

手仕事は鳥取県の大切な歴史的、文化的な財産ですが、後継者(担い手)不足に悩んでいます。そこで、県は最長二年間、研修滞在費や家賃の2分の1を助成する「手仕事担い手育成支援事業」を展開しています。

ところが、この事業は、3親等以内の後継者は支援が受けられないというルールになっていました。

手仕事の世界に新たに飛び込んで後継者となつてくれる人がいれば、それはそれで、素晴らしいことですが、現実には御家族でお仕事をされ、子や孫が跡を継ぐケースが多いようです。そこ

で、昨年6月定例会の一般質問で平井知事にルール改

酒造用試験プラントを導入

「中国5県でないのは鳥取だけです」と昨年6月定例会で知事に新設を強く求めた酒造用プラントが、

産業技術センターに導入されました。事業費は約2800万円。経産省の補助金

などを活用して設置され、6月中の稼働を目指しています。ランニングコストが心配でしたが「酒造りプラント補助金」を新設。県が産業センターに間接補助して使い易い利用料を設定し

正を提案したところ、「議員のおっしゃる通り。新年度予算で対応します」と約束いただき、4月から改めていただきました。

質問後に平井知事から「改正しないと答弁する方針だったが、質問を聞き、その場で考えを変えまし

ていただきました。鳥取の地酒は日本一です。新製品の開発で魅力がさらにアップすると期待しています。

地場産業の販路拡大支援

和紙や緋、酒造など地場産業を支援する「鳥取県ふるさと産業元気な企業育成事業・事業費補助金」は、人気のある補助金制度です。しかし、販路拡大事業は1地域で1イベントとい

た」と教えていただき、本当にありがたいと思いましたが、議場の議論で物事が決まってく議論制度のダイナミズムも感じました。平成16年から23年までに

井戸を災害時水源に活用

東日本大震災の時、飲料水はミネラルウォーターで何とかしたものの、生活水の確保に困つたそうです。そんな中、茨城県神栖

市は市民のアイデアで、所有者が開放に同意してくれた井戸をネット上の地図で公開。本当に助かったということが政務調査で分かったので、政策提案したところ、新年度予算に必要予算

計16人に支給されていますが、今回の改正で利用が増え、吉田璋也さんが育てた鳥取の手仕事、美しい大輪の花開いて欲しいと願っています。

が計上され、協力井戸マップづくりを始めることになりました。

市町村と協力して協力井戸を公募。申請者が希望すれば水質も検査し、周辺住民に分かるように案内板を設置します。予算は92万円余り。工夫すれば少ない予算で大きな成果が得られるモデルケースになるのではと期待しています。

補助率10分の10で、国内の販路開拓では上限100万円、海外は上限200万円

の補助金を受けることができます。この補助金を地場産業の各社が活用して、大都市圏に食い込み、海外へも大きく羽ばたいて欲しいと願っています。